



北海道江別市



野幌商店街振興組合

【商店街の概況】

- ・周辺にJR野幌駅、公民館等があり、市の中心地区にある商店街。
- ・札幌駅まで電車で約20分であり、ベッドタウンとして発展。
- ・平成18年頃から市が再開発事業を進めており、街の様相が変わりつつある。

【課題・目的】

- ・再開発によるコミュニティスペースの消滅
- ・日中利用可能なレストラン・カフェや地元産食品を購入できる場の不足

【事業内容】

- ・地元企業や団体と連携し、地元産食品を活用した飲食・物販店とコミュニティスペースの複合施設「八丁目プラザのっぼ」を整備

【事業の結果】

- ・地域の核となる地元産食品を扱う店舗が完成
- ・商店街が平日昼間の地域住民の憩い・活動の場になった

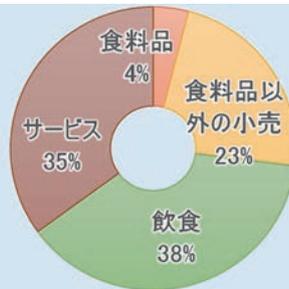
来街者数

平日
1,360人
休日
550人

店舗の状況

〈総店舗数〉
34店
内加盟店
26店

〈業種の構成〉
地域住民向けの
店舗が多い



組織の状況

〈会員数〉
26者

〈年代構成〉
50歳代が半数以上を占める



事業の背景と概要

野幌商店街は江別市中央部に位置し、JR函館本線野幌駅北口から国道12号までの道道370号を中心に約350mの街区をもつ商店街だ。地域に根差した商店街として長年近隣に居住する住民などの生活を支える役割を担ってきたが、平成18年頃から市が進めている再開発事業「江別の顔づくり事業」に伴い、街の様相は徐々に変化していった。

平成25年には、道路拡幅改修整備の影響で立ち退きが求められ商店街内にあったコミュニティ施設が閉鎖。商店街としては、地域のコミュニティ機能を維持しながら地域のニーズに応える事業を行うことで、「人が集まる商店街づくり」を進めていくことが必要だと考えていた。

そこで実施したのが、**地場産品を活用した飲食・物販店とコミュニティスペースの複合施設「八丁目プラザのっぼ」**の整備だ。商店街内の空き地を活用し新たに建設した木造2階建ての施設で、平成28年12月5日にグランドオープン。地域の活動拠点として日々賑わいの中心となっている。

地産地消をテーマにしたカフェ・レストラン（1階）

「日中利用可能なレストラン・カフェがない」「地元産食品を取り扱う店がない」などの声に応えるため、1階手前側には、飲食店を整備。「まちむらブランド」として東京や大阪などでも有名な株式会社町村農場と、市内で大人気のフレンチレストラン「シェ・キノ」が連携した新業態「**カフェ&デリ マチノキ (ma chi no ki)**」がオープンした。

地産地消をテーマに江別産の小麦や野菜、果物、乳製品を使ったメニューが並び、連日地元主婦の憩いの場として賑わっている。

江別産の小麦を使う菓子工房（販売：1階 製造：2階）

1階奥側には、江別産小麦を使ったクッキーやパン、ケーキなどを取り扱う「**菓子工房 笑くぼ**」が出店。2階で商品を製造しており、作り立ての商品が購入できる。

障がいを持つ人の活動の場、交流の場として地域住民から親しまれており、特にシュークリームが人気だ。

様々な活動の場となるコミュニティスペース（2階）

2階には、誰でも利用できる**コミュニティスペース**を整備（1時間300円から）。平成25年に閉鎖したコミュニティスペースに代わり様々な活動の場として利用されており、健康体操講座など定期的な利用者もいる。

事業の実施体制

市の再開発事業が進むなかで、商店街としても動き出さなければならないという問題意識はあったものの、資金の問題などが解決できず長年停滞状態にあった。この状況を打破するきっかけになったのが、平成25年に市が設置した**野幌駅周辺地区活性化計画実現化促進事業コーディネーター**の存在だ。コーディネーターが商店街と市の関係課をつなぐ形で、事業の推進体制が成立。加えて理事長のリーダーシップにより、商店街一丸となって動き出すことができた。

市は、補助事業の自己負担分の一部と「マチノキ」の内装費・家賃を一部補助するなど、金銭的な支援も実施。**商店街・コーディネーター・市の三者がスクラムを組む**ことで、「地域に貢献する」という気持ちを持った協力者を比較的スムーズに集めることができた。地権者の協力を得て通常相場より低廉な借料で土地を借りられたほか、「菓子工房 笑くぼ」を運営するNPO法人「地域で楽しく暮らすネットワーク」や、株式会社町村農場、「シェ・キノ」など、**地域一体となった取組**が実現した。

事業実施にあたって苦慮した事項 解決のために行った工夫

2階テナント部分を菓子製造スペースとして活用

計画段階で活用方法に苦慮したのが、2階のテナント部分だ。事業を継続的に運営していくためには安定的な



コミュニティスペースでの活動（健康体操講座）の様子



「カフェ&デリ マチノキ」での1周年イベント

テナント営業が必要不可欠だが、通常2階は客が入りづらいため出店希望が少ない。

この問題を解決したのが、1階に出店する「菓子工房 笑くぼ」だ。**2階のテナント部分を1階で販売する商品の製造スペースとして活用**してもらうことで、商店街としては1階・2階ともに安定的な営業が見込め、「菓子工房 笑くぼ」としては作り立ての商品を販売することができるようになった。

事業の成果と今後の展開

定期的なイベント開催を検討

コミュニティスペースは、サークル活動や各種講座利用等で利用されており、平成30年3月からは北翔大学と連携し地域食堂を実施するほか、今後はNPO法人と連携し、子どもの学習なども計画しており、コミュニティの場として、さらなる活躍を目指している。

「マチノキ」には、商店街周辺の住民だけではなく、市内外から多くの客が訪れている。平成29年12月6日（水）に「マチノキ」内で実施した**1周年イベント**では、地元のオカリナ奏者によるコンサートを開催。**想定以上の予約が入り急遽二部開催に変更するなど、非常に高い注目を集めた。**

商店街ではこの結果を受けて今後も「八丁目プラザのつぼ」を活用した定期的なイベント開催を検討している。



「菓子工房 笑くぼ」の商品製造スペース



「マチノキ」名物のシチュー

江別奄蓼豚が使用されており、江別産小麦を使ったパンがつく。シチューボウルも江別で有名なレンガでできている。

ニーズ・マーケティング調査等の手法及び概要

【ヒアリング調査】

- ・若い世代（大学生）、子育て世代及び支援団体、高齢世帯、地域の主婦層に対してヒアリング調査を実施
- ・にぎわい・交流を生み出す機能として、**日中利用が可能なレストラン・カフェのニーズが全世代で最も高い**
- ・幅広い世代かつ多様な人同士の交流の場・機会**のニーズが全世代で高い**

【アンケート調査】

- ・野幌駅、大型複合商業施設、野幌商店街、野幌商店街イベントにてアンケート用紙を配布し調査を実施
- ・日中利用が可能なレストラン・カフェ、地元産食品等の販売の場 等

【マーケティング調査】

- ・商圈人口は半径400mで2,916人、（江別市全域の約2.4%）
徒歩圏の半径1km圏内は20,058人（江別市全域の約16.8%）
- ・商店街の活性化につながるニーズを満たす施設をオープンすることで、平日日中や休日の来訪者が増加し、野幌商店街の機能強化と集客・交流の向上が期待できる。

商店街の挑戦の軌跡



野幌駅周辺地区活性化計画
実現化促進事業コーディネーター
山岸氏

駅前の再開発に伴い、長く事業の構想は持っていたものの、費用などの課題がクリアできず、実際には着手できなかった。「地域商業自立促進事業」ができてからは非常にスムーズに進めることができたと思っています。その要因は、商店街がそれまでに時間をかけて地道に検討してきたこと。さらには、地元行政との協力体制ができていたことの2つだと思います。

事前調査の実施

長く計画開始が停滞していたが、平成17年以降、野幌商店街周辺の再開発が本格的に進みはじめる。

- ・平成17年：都心地区整備基本計画策定
- ・平成18年6月：都市計画決定
- ・平成18年11月：野幌駅周辺地区活性化協議会発足
- ・平成20年：野幌駅周辺地区活性化計画策定
- ・平成21年：活性化計画見直し
- ・平成22年：大規模評価委員会を経て事業認可

野幌商店街周辺の再開発が計画される。

道路拡幅改修整備の影響で、商店街内のコミュニティ施設が閉鎖

コーディネーター着任

平成7年

平成17年～平成22年

平成25年

平成25年
平成27年
10月

ニーズ・マーケティング調査等を踏まえて

予想通りだった点

- ・再開発に伴い消滅したコミュニティスペースについて、地域住民から復活を求める声が多かった。

新たに分かった点

- ・「江別産食品」をPRすることで、市外からも人が訪れる施設を作ることができるということが分かった。

商店街のビジョン

江別の中心として
市や地域の団体と連携しながら、

「人と環境にやさしい、
安全で安心なまち、
ぶらぶら歩きが楽しい発見のあるまち」

を目指す！

事業の開始



野幌商店街振興組合
梶野理事長

さらなる挑戦へ！

平成29年12月に開催した1周年イベントが好評で、今後も定期開催を検討しています。今回の「八丁目プラザのっぼ」の事業は、商店街としては新たなスタートだと思っています。平成31年に道路拡幅工事が完了する予定なので、これに合わせて、より過ごしやすい、ぶらぶら歩きが楽しいまちの実現を目指して、地域の皆様のニーズに応えられる商店街を作りたいと思います。

「八丁目プラザのっぼ」オープン！

「地元産食品を取り扱う店」として「ぜひ町村農場に協力してほしい」と商店街の思いが一致。アプローチしたところ、町村農場がちょうど飲食店という新業態への挑戦を考えていたことで、連携が決定。町村農場が「シェ・キノ」との調整を担い、「マチノキ」の出店が決まった。

平成29年12月6日（水）に1周年イベント開催

- ・カフェでのオカリナコンサート



- ・駅前等と合わせたライトアップ



平成30年3月より、大学と連携して地域食堂を実施。今後は子どもの学習支援を計画中。

平成28年
8月

平成28年
12月

平成29年
12月

平成30年